

特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン

国内子ども支援の現場から

世界子どもの日によせて

11月20日は1989年に国連総会にて子どもの権利条約が採択されたことから、「世界子どもの日」とされています。また2024年は国際連盟による「子どもの権利宣言（ジュネーブ宣言）」採択から100年、子どもの権利条約採択から35年、そして条約の日本批准から30年という記念の年にあたります。ワールド・ビジョン・ジャパンも地元の中野区の中学生と共に、子どもの権利について考えるイベントと写真展を開催しました。



子どもの権利のミニ授業の様子



中野東図書館の写真展の様子

中学生の感想

- ・他の国では学校に行けず幼いころから働かされている子どもがいるということに関心を持った。国が違うだけで平等でないのがおかしいと思った。
- ・今回条約があることを知って、子どものことを真剣に考えている人がいることがとてもうれしかったです。
- ・わたしたちにできることをもっと知りたい。
- ・家族や知人に話すことで、世界の人々の状況を広めたいです。

中野東図書館で写真展を開催

子どもの権利について多くの人に知ってもらうため、10月26日～12月26日に中野区立中野東図書館で子どもの権利写真展を開催しています。図書館との共催で、今年で三年目です。ワールド・ビジョンが会った世界の子どもたちの写真を展示し、その写真に関連して子どもの権利条約について知ってもらうことを目的としています。写真のコメントは、中野区立東中

学校の2年生と一緒に作成しました。道徳の時間の講師として、ワールド・ビジョン・ジャパンのスタッフが、子どもの権利についてのミニ授業をした後、写真に関連する条文やコメントをメモに書き貼り付けてもらいました。皆さん熱心に取り組み、難民や児童労働についても驚きと共に、もっと詳しく知りたいと関心を持ってくれた生徒さんもありました。

～スタッフからひとこと～

中野東中学校のみなさんとの授業では、子どもたちが普段感じている「なんか嫌だな」という思い＝「こどもヤ（こどものモヤモヤした気持ち）」についてもお話しました。それをきっかけに「子どもの権利」を自分事として捉え、考えてくれた生徒さんたちも多くいました。子どもたち一人ひとりが生まれながらに持つ権利が大切にされる社会の実現を目指すことはもちろん、子どもたち自身が将来子どもの権利を大切にする社会の担い手になってもらえるよう、これからも支えていきたいと思っています。

(高橋・山下・須田)

